

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		第5期第1回 豊島区環境審議会
事務局（担当課）		環境清掃部 環境政策課
開催日時		令和4年3月3日（木）10時00分～11時35分
開催場所		豊島区役所 庁議室
議 題		1 開 会 （1）委員の委嘱 （2）委員の紹介 （3）会長の選出 （4）副会長の指名 （5）区長挨拶 2 議 題 （1）「2050としまゼロカーボン戦略」（案）について 3 その他 4 閉 会
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 3名
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
出席者	委 員	蟹江憲史、関礼子、柳井重人、高橋正弘、岡山朋子、工藤泰子、土岐有紀子、岡野俊也、和田仁志、大嶋聡、生田茂、重田軍司、柿原歌子、小堀大藏、紫垣敬子、水埜多喜子、村上政美、高桑光浩（環境清掃部長）、近藤正仁（都市整備部長）（敬称略）
	そ の 他	区長、SDGs未来都市推進担当課長、財産運用課長、環境政策課長、環境保全課長、ごみ減量推進課長、豊島清掃事務所長、生活衛生課長、土木管理課長、公園緑地課 公園緑地担当係長（緑化推進）、庶務課長
	事 務 局	環境政策課 環境政策担当係長（環境計画）、同主事1名 環境政策課 環境政策担当係長（事業）

審 議 経 過

○環境政策課長 皆様、おはようございます。

それでは、定刻となりましたので、ただいまより第5期第1回「豊島区環境審議会」を開催させていただきたいと思っております。

本日は大変お忙しい中、ご出席を賜りましてありがとうございます。

私は、審議会の事務局を担当しております環境政策課長の岡田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日は第5期第1回でございまして、後ほど会長をご選任いただくまでの間、私が進行を務めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

本日も会議の運営につきましては、リモート開催をさせていただいております。幹事でございます区の職員も Zoom によって参加をしてございますので、あらかじめご了承くださいと思ってございます。画面に表示される人数が非常に多くなっております。見づらい部分もあろうかと思っておりますけれども、ご容赦いただきたいと思います。

なお、ご発言いただく際には、挙手いただくか、あるいは、Zoom の挙手ボタンがございますので、そちらをご活用いただきますようお願いいたします。画面を進行のほうで確認いたしまして指名させていただきますので、その後発言という形を取らせていただきたいと思っております。

また、お手数でございますけれども、発言する際はご自身でミュートを解除していただきまして、発言の後はミュートにさせていただくようお願いいたします。なお、発言の前には必ずお名前をおっしゃっていただきますと、事務局のほうも議事録等の作成の際に活用させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

出席状況でございますが、村山委員と塩田委員は、所用のため欠席とご連絡をいただいております。

本日の環境審議会は、豊島区環境審議会規則第5条の規定に定める定足数を満たしておりますので、有効に成立していることをご報告申し上げます。

本日の進行につきましては、お手元の次第に従って進める予定でございますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

資料についてでございます。委員の皆様には、事前に資料をご送付させていただいております。まず、資料の確認でございます。

次第でございます。

資料第1-1号「豊島区環境審議会規則」でございます。

資料第1-2号「第5期豊島区環境審議会名簿」でございます。

資料第1-3号「『2050 としまゼロカーボン戦略』（案）」でございます。

資料第1-3号（別紙）「『2050 としまゼロカーボン戦略』策定スケジュール」でございます。

以上を基に、本日進行をさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

それでは、次第では（５）となっておりますが、本日は第５期豊島区環境審議会の初回でございますので、高野区長より一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

高野区長、よろしくお願ひいたします。

○区長 どうも、皆さん、おはようございます。豊島区長の高野之夫でございます。

本日は、第５期第１回の豊島区環境審議会にご出席を賜り、ありがとうございます。

今の司会の話のように、このようにリモートで会議をすると。コロナによって生活様式ががらっと変わりました。我々行政、事務方も、今までもいろいろな面で大変化と申しますか、変わってきているのではないかなど。蟹江先生も、はるばる海外からのリモート参加ということで、すごいですね。こういう時代になってきているということではないかと思っております。

豊島区は、令和２年、一昨年でありますけれども、内閣府、国から、SDGs 未来都市、自治体 SDGs モデル事業に東京 23 区で初めて選定されたわけでありまして。SDGs という言葉は皆さんにも既に浸透してご理解いただいておりますように、国連において、全世界が一致して地球環境を守り、17 項目を示して 2030 年をゴールといたし、誰一人取り残さない社会の実現を決議した、それがまさに SDGs でありまして、全世界でこのような取組が広まりつつあるわけでございます。

近年、異常気象、非常に大規模な自然災害、あるいは、地球温暖化等々で、本当にその対策は喫緊の課題ではないかと思っております。区はこの課題に対応するために、昨年、令和３年、区議会におきまして、23 区で３番目でありますけれども、ゼロカーボンシティの宣言をいたしました。

また、３年前、2019 年でありますけれども、豊島区環境基本計画を策定いたし、2030 年までに温室効果ガスを 2013 年と比較いたしまして 39%削減を目標といたしたわけでありまして。その計画策定から３年がたちまして、この環境への取組がまさに世界規模で大きく変わり、2050 年に向けて、区の環境政策も「2050 としまゼロカーボン戦略」といたして、当審議会におきまして、本年度、令和３年度から、削減目標を 50%に引き上げるととともに、2050 年実質排出量ゼロを目指す方向性に向けて、様々な観点からご議論いただいております。

この第５期におきましては、引き続き本戦略に関わるご意見を賜り、また、今後の環境政策全般についてのご意見も頂戴したいと思っております。本審議会は、SDGs をはじめとして、環境政策の第一人者でございます、蟹江先生、柳井先生等々、そうそうたる学識経験者の皆様、そして、区内に関係する事業者・関連団体を代表するそうそうたる方々にご参加を賜り、さらには、区民から公募によって選ばれました皆様にもご参加いただき、また、この第５期から新たに就任された方々にも心から感謝を申し上げるとともに、ご協力を賜りたいと思います。

今、この前の会議でも、新型コロナウイルス感染症対策本部が、何と豊島区としては今日は51回目でありましてけれども、ようやくこのオミクロン株の感染がちょっと山を越したのではないかと、これはあくまでも数字的な面ではありますけれども、これに対して、全庁を挙げて、全区民に向けて、コロナの対策をしっかりと進めてまいりたい。まだ終息の見通しがついておりません。新型コロナウイルス感染症との闘いはまだ続いているわけでありましてけれども、このコロナの終息はまさにワクチン接種しかないという思いで、第3回目の接種をしております。豊島区は、65歳以上の高齢者の方には何と60%を超える接種をしておりますけれども、若い方々、特に3～11歳によいよクーポンを一昨日お配りいたしまして、子供さんにもワクチン接種をしてもらいたいという取組も進めているわけでございます。何としても一日も早くこのコロナウイルスに打ちかってまいりたいと思っております。保健所を中心として、まさに私たちは全庁を挙げてこの取組をしているわけでありまして。

豊島区は、ご承知のように、日本一の高密都市でございます。それだからこそ、温室効果ガスの削減、生物多様性の保全、資源循環、環境の美化など、様々な環境課題がありまして、これに取り組み、持続可能な都市を実現していかなければならないと思っております。

豊島区は、本年度、最重点課題の一つとして、池袋の都市再生を掲げております。この池袋は、乗降客が日本第3位、1日270万人の乗り降りがありますけれども、この一大ターミナル、池袋に集中しておるわけでありまして、この池袋からまちを広げていく、今は「ウォークアブル」という言葉を使っておりますけれども、人に優しい、車を排除し、特に駅前周辺は人優先のまちをつくっていききたいという形で、ウォークアブル都市を目指しているわけでありまして。この辺についても、また審議会の中でこの豊島区取組等々についてはお話しさせていただく機会があるかと思っております。

さらに、豊島区は、本年、90周年の節目の年を迎えます。80周年からの10年間、豊島区は本当に変わりました。消滅可能性都市と言われた豊島区は、これに打ちかって、持続発展都市へ向けて大きく変化をしたわけでありまして。大変貌をいたしました。委員の皆様方も、池袋を中心に随分変わってきたなということをお感じになると思っております。私は、日本一の高密都市でありながら、先ほどお話ししたようなウォークアブル、人に優しいまちを、四季を感じ、いかに環境に優しいまちをつくっていくかということが、この豊島区、池袋を中心としたまちの変わりようであるのではないかとと思っております。持続発展都市としてのSDGs都市へ向けて、豊島区が掲げる国際アート・カルチャー都市への道を着実に私は進んでいると思っております。この90周年は、さらなる100周年に向けて、皆様のお力をお借りいたしまして、輝く豊島新時代をつくり上げてまいりたいと思っております。輝く豊島新時代、これこそ私たちの目標であり、当審議会におかれましても、先ほど来、お話ししたように、環境政策全般について、忌憚のない委員の皆様からのご意見を賜り、また、専門的な見地から、あるいは、企業・関連団体の皆様か

ら、区民を代表する公募による委員の皆様等と、様々な皆さんからこの審議会でご意見を賜り、この豊島区が環境都市として進むべき方向性もしっかりお決めいただければと、たくさん、お願い、お願いで恐縮ですが、ぜひこの審議会に豊島区の中心的な役割を担っていただきたいという期待を、私自身持っております。

お話が長くなりましたけれども、このような審議会の皆様方のご示唆をいただき、この審議会に、本当にこれからの持続発展都市へ向けて、しっかりした歩みを示していただけるような思いでおりますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上でございます。ありがとうございます。

○環境政策課長 区長、ありがとうございました。

大変恐縮でございますが、区長はこの後公務の都合がございますので、退席をさせていただきますと思います。

○区長 大変恐縮でございます。随分力が入って皆さんにお話をしてしまいましたけれども、ぜひ期待し、また、皆様方のお力をより一層賜りたい、そんな思いをしております。今日、私は外へ出なければいけない公務がありますのでここで失礼をいたしますが、どうぞ皆さん、よろしく願いいたします。

また、蟹江先生、遠くからありがとうございます。

皆さん、よろしくどうぞ。失礼いたします。

○環境政策課長 ありがとうございます。

続いて、進行をさせていただきたいと存じます。

まず、委員の委嘱及び委員の紹介に移らせていただきたいと思います。

皆さんにおかれましては、このたび、豊島区環境審議会委員をお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。

本来ですと、区長からお一人お一人に直接委嘱状をお渡しすべきところでございますけれども、何分オンラインでの開催ということもございまして、お時間の関係もございまして、お名前をお呼びすることによって委嘱に代えさせていただき、委嘱状は郵送という形を取らせていただきたいと思います。どうぞご了承のほどよろしくお願いいたします。

それでは、本日ご出席いただいております審議会の委員の皆様のご紹介を事務局からさせていただきますと存じます。資料第1-2号「第5期豊島区環境審議会委員名簿」の記載の順番でお呼びさせていただきますと存じます。恐れ入りますが、お名前をお呼びした方は、手を挙げていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

蟹江憲史委員でございます。

柳井重人委員でございます。

関礼子委員でございます。

高橋正弘委員でございます。

岡山朋子委員でございます。

村山顕人委員は、本日、所用のため、ご欠席でございます。

工藤泰子委員でございます。

土岐有紀子委員でございます。

岡野俊也委員でございます。

和田仁志委員でございます。

塩田明央委員でございますが、本日は、所用のため、ご欠席でございます。

大嶋聡委員でございます。

生田茂委員でございます。

重田軍司委員でございます。事務局のほうの席からのご紹介でございます。

柿原歌子委員でございます。

小堀大藏委員でございます。

紫垣敬子委員でございます。

水埜多喜子委員でございます。

村上政美委員でございます。

区側でございますが、環境清掃部長、高桑光浩委員でございます。

都市整備部長、近藤正仁委員でございます。

以上、21名の委員の皆様によって、第5期審議会を進めさせていただくこととなりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

委員の任期でございますが、本日、令和4年3月3日から令和6年3月2日までの2年間でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、幹事であります区側の紹介につきましては、大変恐縮でございますが、時間の関係もございますので割愛をさせていただきたいと思っております。本日お配りしております資料によりまして、メンバー構成につきましてはご確認いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、(3)会長の選任に移らせていただきます。

豊島区環境審議会規則第3条第2項の規定により、「会長は、委員の互選により選出する」ことになっておりますが、この会長選出につきまして、いかがいたしましょうか。

よろしくお願いいたします。

○委員

私は、蟹江委員を会長に推薦させていただきたいと思っております。

蟹江委員は、地球温暖化や気候変動の問題を中心に、地球システムガバナンスをご専門に研究されておりました、SDGs研究の第一人者でございます。豊島区はSDGs未来都市としてあらゆる施策にSDGsの理念を取り入れて推進していること、第1期から豊島区環境審議会の会長を務められていることから、今期も引き続き会長として適任であると思っております。

以上です。

○環境政策課長 ありがとうございます。

今、蟹江委員を会長にということでご推薦がありました。皆様、いかがでございましょうか。

(「異議なし」と声あり)

○環境政策課長 よろしゅうございますでしょうか。

そうしましたら、今、「異議なし」というご意見もございましたので、蟹江委員に会長就任をお願いしたいと思います。皆様、よろしゅうございますでしょうか。

それでは、蟹江会長から一言、ご挨拶をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○会長 ご指名いただきましてありがとうございます。大変恐縮に思っておりますけれども、せっかくこういう役をご指名いただきましたので、お受けしていきたいと思っております。

今、お話しいただきましたけれども、第1期からこの役職を務めさせていただいて、毎年どんどん新しくなっているところで、ちょうど今、気候変動の問題も非常に重要な課題になっておりますし、今日議論するところもそうだと思います。先ほど委員から言っていたように、SDGs 未来都市として豊島区にかかる期待は全国的にも非常に大きいと思いますので、ぜひそういったところで何かお役に立てればと思っております。

これから、またよろしく願いいたします。

○環境政策課長 蟹江会長、ありがとうございます。

続きまして、副会長の指名となります。

豊島区環境審議会規則第3条第4項の規定によりまして、「副会長は、会長が指名する委員をもって充てる」ことになっています。

それでは、蟹江会長から副会長のご指名をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○会長 私もこの副会長をどなたにお願いするか少し考えるところがあるのですが、今回はぜひ関委員にお願いできないかと思っております。地元の先生でもございますし、いろいろな知見も深い先生ですので、関委員にお願いできればありがたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○環境政策課長 ただいま、蟹江会長から、副会長に関委員のご指名がございましたが、関委員、それにつきましてお考えと申しましょうか、ご意見をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○委員 立教大学の関です。

ご指名をありがとうございます。

失礼ながら本日は途中退室になりますけれども、以降、蟹江会長のご対応の場合のバックアップ機能たり得るよう、精いっぱい務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

○環境政策課長 関委員、ありがとうございました。

それでは、関委員を副会長ということで、今後運営をさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○会長 ありがとうございます。

○環境政策課長 議題に移ります前に、会議の公開と会議録の作成についてご説明させていただきたいと思います。

審議会の会議の公開につきましては、「豊島区審議会等の会議の公開に関する要綱」がございます。こちらにつきましては、まず、会議は原則公開でございます。資料も公開となっております。会議録につきましては、会議録の記載事項のうち審議経過については、発言者の氏名を記載せず、「委員」という表現で整理をいたします。また、事務局及び区側出席者については職名で整理をいたします。会議終了後、事務局でまとめ、皆様にご確認いただいた上で、ホームページに掲載いたし、公開いたします。

なお、本日の予定でございますが、11時30分を目途にご審議いただく予定でございます。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、ここからの会議の進行は蟹江会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○会長 ありがとうございます。

それでは、慣れないインターネット経由のオンラインでの審議会の開始ということになりますけれども、ここからよろしくお願いいたします。

議事にのっとって進めていきたいと思いますが、まず事務的な点から確認していきたいと思います。

傍聴者の方がいらっしゃるかどうか、事務局で確認いただけますでしょうか。

○環境政策課長 本日は、3名の方が傍聴を希望されていらっしゃいます。

○会長 これはZoom経由で入室ということになりますけれども、入室をお願いいたします。

○環境政策課長 この事務局の部屋の外で待機されておまして、後ほどこの事務局の席の後ろに着くという形になりますので、Zoomではなく、事務局側の後ろに座っているとご認識いただければと思います。申し訳ありません。

○会長 分かりました。

それでは、部屋に入室をお願いいたします。

委員は画面上で傍聴の方が現場にいるというのも少しユニークな感じがしますが、このご時世を反映してということで、よろしくお願いいたします。

(傍聴者入室)

○会長 よろしいでしょうか。

それでは、議題に早速移らせていただきます。

本日の議題は1つでして、「2050 としまゼロカーボン戦略」についてです。今は案の段階ですけれども、このご説明をいただいて、その後しっかりと議論をして、今日の内容としていきたいと思います。

まずは、内容について、ご存じない方もたくさんいらっしゃると思いますので、事務局からご説明をお願いいたします。

○環境政策課長 それでは、議題（1）「2050 としまゼロカーボン戦略」（案）についてご説明申し上げます。引き続きまして、その後のスケジュールについても併せてご説明申し上げたいと思います。

第4期から引き続き委員としてご参画されている方々につきましては、前期から様々な形でこの場でご意見をいただいております。本日の資料につきましては、そのご意見等を踏まえて網羅した形で資料をお作りしていることになってございます。また、今期から初めて委員をなされている方々につきましても、過去の経緯も含めてご説明する必要もありますので、前回からの変更点も含めて総括的な説明の仕方をさせていただきたいと思っております。

資料第1-3号をお取り出しいただきたいと思っております。

1枚目が表紙でございまして、ページをおめくりいただきますと、目次となっております。第1章が気候変動による地球環境への影響、第2章がゼロカーボンについての説明、第3章が「2050 としまゼロカーボン戦略」、目次は（仮称）となっておりますが、申し訳ありません。「（仮称）」は削除していただきますようお願いいたします。第4章が削減目標の設定でございまして、第5章が2050年に向けた戦略で、戦略に取り入れる視点、アクションが4つございまして、そちらの説明になります。第6章が気候変動の適応策でございまして、こちらはゼロカーボンに向けた取組とともに気候変動への適応という観点も含めて網羅した戦略になってございます。最後が資料編という構成となっております。

まず、1ページ目でございます。「第1章 気候変動による地球環境への影響」でございまして、冒頭の赤字になっているところが前回の審議会から記載などを修正・変更した点でございます。まず、この気候変動につきましては、様々な形からもっと気候変動に対する危機感を強調する表現にしたほうが良いというご意見を複数の委員の方々からいただいております。本日お示ししたこの赤字の部分については、より踏み込んで、こういった対策をしないと、まさに今、地球全体、全世界が直面しているんだという、課題を共有するような記載の仕方にしてございます。1ページ目の下のところに、小さな文字で赤字になっております。こちらにつきましては、それぞれの用語などの注釈を、計画あるいは出版物については巻末に資料編という形でついている部分が多いのですけれども、読み進めながらより理解が進むよう、ページの下に、小さな文字ですけれども、必ず注釈をするという全体の構成にさせていただいております。

3ページをお願いいたします。「5. 生態系に見られる気候変動の影響」は、豊島区の中で観測しているであろう気候変動の影響について記載をしております。上の段でござ

いますけれども、前回の資料では、気候変動の災害の具体的な例示あるいは地図への落とし込みでより理解が深まるような記載をというご指摘もございましたので、その点を変更させていただいております。

5ページをお願いいたします。「8. 未来の天気予報」でございまして、このまま対策をしない場合に将来的にはどのような気候あるいは天候になるのかということをお示ししております。こちらは第1章の気候変動による影響でございまして、より危機感が分かるような形で、この対策をしないと、例えば、将来、東京ですと43度になる、あるいは、非常に大きな870ヘクトパスカルといった台風なども発生し得ることを記載しているところでございます。

隣の6ページでございまして、第2章になります。こちらはゼロカーボンの意義をまとめて掲載しております。まず、ゼロカーボンの意義。世界の動きということ。

7ページは、ゼロカーボンシティを宣言している自治体の資料になります。こちらは、前回と比較いたしまして、直近の自治体の資料を掲示して最新版にアップデートをしております。

8ページは、第3章でございまして、「2050 としまゼロカーボン戦略」の位置づけという説明をしております。まず、「2050 としまゼロカーボン戦略」の意義ということで、そういった動向が広がっていることと、豊島区としても、先ほどの区長の挨拶の中にもございましたけれども、ゼロカーボンシティを宣言し、SDGs 未来都市という位置づけも含め、さらに取組を強化するというので、「2050 としまゼロカーボン戦略」を策定するというのでございます。こちらにつきましては、今、豊島区環境基本計画の中でも、温暖化あるいは気候変動に対する取組も網羅されておりますので、2050年に向けた取組を別途策定いたしまして、将来的にはこの環境基本計画の見直し時期に合わせてアップデートという形で想定をしております。

10ページをお願いいたします。「第4章 削減目標の設定」になります。こちらは、先ほど区長の挨拶にもございましたけれども、温室効果ガスの削減目標を現行の環境基本計画で定めている39%削減から50%削減にするという目標を掲げております。その下の「2. 削減目標の設定の考え方」でございまして、まず、2050年に実質排出量をゼロとすると仮定した場合に、バックキャストという考え方で、目標設定に対して逆算をしてどの程度の目標設定が妥当かという数値をこちらに掲載しております。現行から申しますと、46.3%に削減すれば、グラフ上の直線の理論値でありますけれども、達成ができるという目標になっております。国も、46%、さらに高みを目指すという宣言もしておりますし、豊島区も東京都の一員でありますので、カーボンハーフという東京都の考え方に賛同する形で、さらに上乗せをして50%の削減目標としましょうという考え方がこちらで示されているものであります。

11ページになります。こちらが「第5章 2050年に向けた戦略」という位置づけになります。SDGs 未来都市の考え方、国際社会との協調、国や東京都との連携、多様な主体

との連携・協働でございます。「(3) 多様な主体との連携・協働」につきましては、前回、委員からのご指摘もございましたけれども、コミュニティとしての全体の考え方をこちらで網羅させていただいたわけでございます。下の「2. 4つのアクション」の構成は変わっておりませんが、アクション1「環境にやさしいエネルギーの利用促進と省エネルギー化の推進」、アクション2「未来へ向けたライフスタイルの転換」、アクション3「資源循環・3Rの推進」、アクション4「区の率先行動」の4つを柱として取り組んでいこうというゼロカーボン戦略になります。

13 ページをお願いいたします。まず、アクション1でございます。構成としては、導入文があって、2050年の目指すべき姿、2030年の目標、こちらは区の目標とともに東京都の「ゼロエミッション東京戦略」の目標を掲げております。こういった目標についても区としても目指していきましょうということから、並列した形で目標を掲げております。さらには、区での取組。ページをおめくりいただきますと、オールとしまで達成するために個人で取り組むこと、事業者として取り組むことという構成として、全てのアクションについて統一を図っております。最後に、実質的な取組でなかなか書き切れない部分については、記述を易しい表現で分かりやすく書くように、補足という意味でつくっているところがこのコラムになっております。

14 ページの2030年の目標で申しますと、エネルギーに関しては、消費量は50%削減、家庭への再生可能エネルギー及び省エネルギー機器の導入助成件数1,800件、事業者への再生可能エネルギー及び省エネルギー機器の導入助成件数が160件、区内の太陽光発電の設置容量が3万2500キロワット、こちらは今の環境基本計画では1万2311キロワットでございますので、2030年に向けて目標を大幅に上乗せしている目標になっております。そのような構成になっておりまして、区の取組につきましても、省エネ・環境に優しいエネルギー、普及啓発、緑化の推進という3つの柱で構成しております。

さらには、区民の方々、事業者の方々に、こういった取組を一緒にやっていけば、2030年に向けた目標あるいは2050年への取組が一層加速するのではないかという構成にしております。

17 ページをお願いいたします。こちらが、アクション2「未来へ向けたライフスタイルの転換」となっております。先ほど申し上げた省エネルギーの取組も区としていろいろな旗振りをしながら進めていく必要がありますけれども、それを実現していくためには区民の方々や事業者の方々が協力をして一体的に取り組む必要があることから、アクション2の位置づけをこのような形にさせていただいております。

主な区の目標としては、駐輪場の整備済台数は、前回のご意見の中でも自転車の取組というご意見もございましたので、そういったものも反映させていただいております。食品ロスの削減もこのライフスタイルの転換の中で非常に大きな役割を果たしておりますので、その区民の割合を80%以上という目標を掲げております。区の取組といたしましては、環境に優しい交通システム、IKEBUSの関係ももう少し網羅すべきではないかという

ご意見で、赤字で記載しております。それから普及啓発と食品ロス対策という記述にしております。

以下、オールとしまで達成できる個人の取組、事業者にできる取組という記載の構成にしております。

なお、20 ページの記載でございますけれども、ほかのイラストの部分もそうなのですが、許諾の関係もございまして、なかなか反映できない部分もございますので、本日、この審議会での資料につきましてはこのような形になろうかと思っております。次回開催のときには許諾が取れて掲載ができればということで、今、事務局で手続等を行っている次第ですので、この資料につきましてはこのような内容になることをご容赦いただきたいと思います。これらの取組に全て全世帯で取り組むと、家庭部門排出量の9%相当量の削減を達成することになりますということで、区民の方々あるいは事業者の方々への取組を促している記載になっております。

22 ページをお願いいたします。こちらが、アクション3「資源循環・3Rの推進」でございます。そもそも資源を出さない、余計なものをつくらない、そういったものがあって資源循環になるという前回の委員のご指摘もございましたので、その辺は反映させていただいております。

23 ページになりますけれども、2030年に向けた目標で、1人1日当たりのごみ量を470グラムとすること、資源化率が22.9%という区の目標も掲げているところであります。区の取組としては、ごみを減らすための取組、リサイクルの推進、普及啓発の3つを柱とさせていただいて、2030年、2050年に向けた取組を進めていきたいと思いますという考え方がなっております。

25 ページをお願いいたします。そういった取組を進めるに当たっても、豊島区役所も一つの大きなCO₂を排出している事業者でありますので、区としても率先行動という形で範を示しながら積極的に環境への取組を進めて、その効果あるいはその機運が区内全体に広がって行って、環境への取組を盛り上げていく。そのための一つのきっかけとなるような取組として、「区の率先行動」ということでアクション4を掲げております。こちらの中では、豊島区としてもCO₂の排出量を50%まで削減しようという目標を掲げております。こういった取組の中でも様々な形でありまして、環境配慮型の活動もしながら、あるいは、CO₂の排出の少ない電力の採用、低公害車といった取組なども進めていながら、積極的に取り組んでいこうということでもあります。

もちろん環境に配慮した区有施設への取組も一つの大きな取組で、26 ページにかけて記載をさせていただいているところであります。

27 ページをお願いいたします。こちらは、第6章、気候変動の適応策でございまして、今、国でも気候変動の適応策の計画策定につきましては努力目標になっておりますが、今回、ゼロカーボン戦略を作成するに当たりまして、併せてこういったものも網羅して、全体的な取組として整理をさせていただいているところであります。27 ページから 28 ペー

ジにつきましては、その適応策の説明になっています。具体的な取組については、29 ページからになります。

29 ページになりますけれども、適応策の目標値を掲げております。流出抑制対策済量、遮熱性舗装の整備済面積、講座、緑被率、熱中症による緊急搬送者数の減少、あるいは、区民意識調査での割合といったものを目標値として掲げておまして、区での取組とすると、防災面、熱中症に対する取組、感染症予防、ヒートアイランド対策、緑化の取組といったものを主な柱として掲げておまして、こういったものを総合的に取り組むことによって環境への適応策とするとともに、適応に取り組む動きも兼ねて緩和といったところにも取り組んでいこうというのがこの適応策の記載でございます。なお、緑化の取組につきましては、今、環境基本計画の中でも掲げている様々な取組についても網羅して、緑化の取組も含めて取り組んでいこうという記載にしているところでございます。

35 ページ以降が資料編となっております。大きな変更点はございませんが、39 ページ以降、前回の審議会にご出席された方はお分かりになるかと思いますが、少しボリュームが大き過ぎて本編が手薄くなってきた部分もございましたので、ワークショップの実施結果と区民アンケートの結果については、すごく中身をコンパクトにして、エッセンスのみを記載するような形で整理したという中身になっています。

続きまして、資料第 1-3 号（別紙）をお願いしたいと思います。

こちらは策定スケジュールになっておまして、3月のところが本日の環境審議会の戦略案の提示という形になっています。その後、議会への報告を行いながら、パブリックコメントに移っていきたいと思っております。最終的には、5月下旬から6月にかけて再度環境審議会を開催させていただきまして、そちらで内容をご了解いただき策定というスケジュールを事務局では想定しているところでございます。

雑駁になりますけれども、説明は以上でございます。

よろしくお願いいたします。

○会長 非常に細かい点までご説明いただきまして、ありがとうございました。

前回でご議論いただいているところではありますけれども、新しく委員になられた方も含めて、前の委員の方が思い出す意味でも非常によいご説明をいただいたかと思いません。

それでは、この「2050 としまゼロカーボン戦略」（案）につきまして、ご意見、ご質問をいただきたいと思っております。今日は最初の回ということもありますので、できるだけいろいろな方にご質問やご意見をいただきたいと思っております。こういうオンラインの形でもありますし、ぜひどんどんお気軽にご意見をいただければと思います。時間の関係もありますので、できるだけ短く発言をまとめていただければと思います。

それでは、ご意見、ご発言のある方は、Zoom の「手を挙げる」という機能がリアクションのところにありますけれども、そこで手を挙げていただければ一番分かりや

すいのでありがたいと思っています。もしそれが分からない方は、実際に手を挙げていただいてもいいですし、そのまま発言していただいてもいいですけれども、お分かりになる方はできればアクションのところの「手を挙げる」の機能を使っただけであればと思います。

それでは、ご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

ありがとうございます。手が挙がりました。お願いします。

○委員 今回、初めて委員をさせていただきます。

今までずっとこの計画に関わっていらした方には、大変申し訳ないというか、失礼かもしれないのですが、16 ページにメタネーションというものがあるのですが、これについて、私はあまりよく分からないのですけれども、メタンガスは都市ガスに使われているガスなのかもしれないのですが、水素と二酸化炭素からメタンをつくるということは学生時代に習ったような気がするのですけれども、私たちが実際に使うときには、それを燃やしてエネルギーを取るわけですよね。そうすると、水素と二酸化炭素を化合させてメタンをつくる時にそこでエネルギーが入るからメタンになるわけで、そうすると、メタンを合成するためのエネルギーをさらに付加しなくてはならないわけで、その熱エネルギーはすごく失われやすいわけで、完全に燃えたとしてもそれが100%使われることはないわけで、今、このメタネーションは地球の温暖化であまり主要に使われては困るような気がします。

もう一つ、ここにはあまり書いていないのですが、豊島区がエネルギーをつくり出す場合には太陽光とかが多いかと思うのですけれども、海洋発電というのですか、風力発電でもって豊島区にエネルギーを運ぶことは、もし東京湾にそういうものができれば、距離的にも短いですし、いいのではないかと考えています。

3R の推進は、とても賛成でして、ぜひこれを進めていただきたいと思います。そのためには、豊島区の清掃事業でプラスチックの回収を徹底することが必要だと思いますし、プラスチックのものを燃やすとまた熱量がとても出るので、それもあるべく少なくなるような形でリユースを進める、ガラス瓶とか、別のもので、繰り返し使えるプラスチックの利用とかで進めていただきたいと思っています。

今のところ、気がついたことはそこだけです。ありがとうございました。

○会長 ありがとうございます。

すみません。お時間の関係があるので、できるだけ短く、大体1人1分ぐらいでご質問をお願いできればと思います。今、3人の方から手が挙がっておりますので、その3人の方のご質問を受け付けてからご回答をお願いしたいと思います。

続いて、お願いします。

○委員 前期に引き続きまして、第5期も引き受けさせていただきます。よろしく願いいたします。

中身のことというよりも、構成といいますか、3点、気になるところをご説明させていただきます。

14 ページなのですが、こちらは間違いなのかなと思うのですが、中央辺りに「(16 ページコラム「まちと省エネ」参照)」と書かれておまして、16 ページのコラムを見ますと「まちの省エネ」となっております。こちらは、「まちと」なのか、「まちの」なのか、どちらなのか。「まちと」だと思うのですが、そちらが違うのかなと思いました。

全体の構成としまして、例えば、「区での取り組み」や「オールとしまで達成するために個人でできること」と書かれた枠と「コラム」がとても似た形になってまして、どこにコラムがあるのかが分かりにくいかなと思いました。ですので、こちらは色を変えとか、何かデザインのところを変更したほうがよろしいのではないかなと思いました。

13 ページ、ほかのところにも書かれているのですが、「若者の提言マーク」、電気がついているようなものなのですが、こちらと、39 ページの大学生の資料、「大正大学の学生さんのワークショップ」のところで、最後まで読んでいかないとつながりが分からないと思うので、「(39 ページ参照)」とか、そのような形の文言が何かあれば分かりやすいのではないかなと思いました。

以上です。

○会長 非常に細かく読んでいただいて、本当にありがとうございます。コラムのところは私も気になっていたもので、ご指摘いただきまして、大変ありがとうございます。

続いて、お願いいたします。

○委員 大分よくまとまってきたなということで、事務局のご努力は本当にいかばかりかと思っておるのですが、細かいことですが、24 ページの右下のコラムです。使い捨てプラスチックの中で、「マイクロプラスチック」という言葉が、絵の中にはあるのですが、コラムの文章中に出てこないのですね。指摘していることが「プラスチックを海のいきものが誤って食べてしまう等の生態系を含めた環境への影響が世界的に課題」となっていますけれども、最終的にマイクロプラスチックが食物連鎖の頂上である人間に蓄積していくことが一番大きな問題だと思いますので、その言葉を入れたほうがいいのかということの一つ。

もう一点は、次の25 ページの左下、区での取組の一番下です。「低公害車導入」を読むと、途中からですが、「電気自動車やハイブリッド自動車など、環境にやさしい車を導入するようにしています。将来的には電気自動車や、燃料電池自動車への切り替えを進めていきます」という日本語が何を言おうとしているのかよく分からないということで、変えたほうがいいのかと。

この2点でございます。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

最後のご指摘の点は、私も見逃していましたけれども、おっしゃるとおりで、これは2050年の戦略なので、「将来的には」とここで言うと、その先の話なのかという誤解を招く可能性もあるので、今、ご指摘を受けて、確かに修正したほうが良いなと思いました。

一旦、ここで事務局にお戻ししたいと思いますけれども、その前に11時までで退出されるとおっしゃっていましたので、ご退出の前にもし何かあればと思いますが、いかがでしょうか。

○副会長 すみません。チャットに書いて残しておこうと思ったのですが、細かなところで、例えば、20ページなどの冷蔵庫と冷凍庫の対比のところ、冷蔵庫は詰め過ぎない、冷凍庫は詰めたほうが良いとか、細かなところで事実関係に誤認のないように、少し丁寧に見たほうが良いかなと思いました。

全体的には非常に分かりやすくなって、前回の専門家が見るべき資料というよりは、むしろ一般市民にも分かりやすくアピールできるような形態に近づいてきているのではないかなと思いました。本当にお疲れさまです。

ありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。

それでは、事務局で最初のご質問に対するご回答をお願いします。

皆さん、引き続き、手を挙げていただいて結構ですので、どんどん手を挙げていってください。

それでは、事務局、お願いします。

○環境政策課長 まず、メタネーションのお話は、委員の専門の視点もございますので、もし補足等があったらお願いをしたいと思いますっておりますが、このメタネーションと申しますのは、そもそも、石油由来のガス、エネルギーを使わずに、今排出されているCO₂を燃料として、CO₂のリサイクルといった言い方が一番分かりやすいかなと思いますけれども、使用していこうということになります。したがって、CO₂を吸収して石油由来のエネルギーに代えて使うという観点で申しますと、これはCO₂の削減に大きく貢献いたします。これが進みますと、石油由来のガスを使わずに天然のCO₂を使ってエネルギーを燃焼させていくことになります。燃焼させていく、あるいは、メタンガスを生成するに当たっては、エネルギーを確かに使いますが、今まで新たに石油由来のエネルギーを使っていたものからすると、大幅にCO₂の排出量は減りますので、その点からこういったコラムの欄をつくって、新しいエネルギーが出てきたと。さらには、こういった新しいエネルギーの技術的な面についても区民の方々にもご興味を持っていただく、それによって、例えば、再生可能エネルギーや環境に優しいエネルギーの利用促進に意識が繋がっていくのではないかなという形で、今回このメタネーションという書き方をさせていただいています。合成に当たっては当然エネルギーが出ることは私どもも承知しておりますけれども、さらにそこに踏み込んで、石油由来のエネルギーをどういうふうに整理してい

くかといった観点からこの16ページの記載をさせていただいたという趣旨になっております。

風力発電については、再生可能エネルギーというより、日本の中でも18~19%ぐらいしかまだ賅っていない状況になります。これを、例えば、屋根の上に太陽光発電を載けるといっても、それはそれで我々も一般の区民の方々にも進めていただきたい施策ではありますけれども、それ以上に今賅っている電力をどのような形でカバーしていくのかといった可能性を掲げております。確かに、豊島区は海に面していませんから、そこは難しいかと思えますけれども、より広いエネルギーの観点からこちらを記載させていただいたという中身になります。

3Rの観点については、ごみ減量などを積極的に進めていながら記載しております。前回の審議会から比べますと、踏み込みもなかなか難しい面もありまして、プラスチックの分別につきましても、スケジュールは書かせていただいております。これは現段階でつくっている戦略という形でまとめさせていただいておりますけれども、個別の細かな施策については、もっと区民の方々にブレークダウンをして、細かくお知らせしていく必要があろうかと思えますので、その点についてはまた別途工夫をしていきたいと思っております。

続いて、記述について大変細かい視点までご指摘いただきまして、ありがとうございます。いろいろな情報を収集しながらこの中身をいかに分かりやすくするのかということで、非常に我々も苦勞して作っておりますけれども、逆に、委員の方々からそういったご指摘をいただけることは非常にありがたいと思っております。分かりづらい記載については修正させていただきたいと思えますし、レイアウトについて分かりづらい部分があったら、そこはご指摘をいただきまして、反映させていきたいと思えます。日本語の記述についても、我々も近視眼的な見方をしている部分もありますので、より2030年や2050年に向けた取組という記述ができるところは工夫をしていきたいと思っております。

総括的なお話になりますけれども、回答としては以上のような形になろうかと思えます。

○会長 ありがとうございます。

多分細かい字句の点については、後から書面等でコメントをいただいてもいいように思えます。

先ほどの最初のメタネーションのところですが、確かにここを見ると、コラム、コラム、コラムと3つ続いてしまっていて、見にくいかなというところがあるので、コラムは四角の中に入れてたりして配置をいろいろとするとか、その辺の工夫もあるとより見やすくなるかなという感じがいたしました。

先ほどのご説明の中で委員からもしご説明があればということで、追加のご説明があれば、よろしくお願ひします。

○委員 ご質問をありがとうございます。また、事務局のご回答もありがとうございました。

前回も、この「メタネーション」という言葉自体の認知度が低いこともあって、同様のご意見をいただいたのではないかと考えております。全体的に「2050 としまゼロカーボン戦略」の骨子の中では、豊島区民や事業者が 2030 年あるいは 2050 年に向かってどういう取組をするかということが中心になっていますので、まさにこのエネルギーの部分は、コラム、追加の部分だろうとは思っています。ただ、CO2 は電気やガスを使うことによって発生しているのですね。我々ガス事業者、あるいは、東電さんもおられますけれども、電力も含めてガスや電気そのものも CO2 の排出が少なくなるような形に 2050 年に向かってどんどん変わっていきますよと、それがこのコラムに書かれているまさに未来のエネルギーということで、だからといって我々が何もしなくてもいいというわけではなくて、これは分かりやすいのですが、今の電気についても再生可能エネルギーみたいな形に変わっていきます。ガスについても、メタネーションとか、水素と言うと分かりやすいと思うのですが、こういった新しいガス化エネルギーに変わることによって、今の化石燃料の天然ガスよりもより CO2 排出量が少ないガスに、2050 年に向かって大きく変化していきます。そういうものを情報提供的にここで記載したという趣旨だろうと思います。書き方等はまた少し工夫が必要かもしれませんが、全体的にはそういうことでございます。

以上です。

○会長 ありがとうございます。非常によく分かりました。

もう少しかみ砕いた表現がもしかしたら必要なという気がしますので、その辺も含めてまたご協力をお願いいたします。

それでは、また 3 人の方から手が挙がりましたので、よろしく願いいたします。

○委員 よろしく願いいたします。

今回が初めてなので緊張しているのですが、これを拝見して、カラーですごく見やすく、いろいろなことが書いてあってよかったなと思うのですが、私はフードアナリストをやっております、その中で食品ロスについていろいろと考えていたのですが、皆さんの意見として、SDGs は知っている、食品ロスも何かしなければいけないことは分かっている、だけれども、結局どうなのか、大元はどうなのかとよく聞かれて、2050 年になったらひょっとしたらお茶がつかられなくなってコーヒーしか飲めなくなるのですよとか、ご飯ではなくて違うものが主食になってしまうかもしれないんだよ、だから今考えなければいけないのですよと言うと、みんながすごく納得するのですね。そういうストーリーや共感みたいなものが入っているととってもいいのかなという気がしました。

細かいことなので私も分からないのですけれども、11 ページの図なのですから、これは前に見た3本柱の図になっているのですが、今はウェディングケーキ型になっているのではないかと。その辺は分からないのですけれども。

23 ページのごみの量は、何グラムではなくてもうちょっと具体的に、例えば、今はこうなのだけれども、2030年にはペットボトル1本分ぐらい、とか。

もう一つだけ、「ナッジ」という言葉が書いてありますけれども、この中を見て、今度4月から教科書に出てくる「エシカル」という言葉は出てこなかったかなと思って、それが気になりました。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

いずれも、もう少し目線を落としてというか、分かりやすく書かれるといいのではないかとこのところで共通しているご意見だったかと思います。具体的な例やエシカル消費も含めて分かりやすくすることは非常に大事だと思いますので、ぜひご検討いただければいいと思いますけれども、事務局からはまた後ほどご回答いただければと思います。

○委員 前回に引き続き、またよろしくどうぞお願い申し上げます。

大変野心的な目標設定を立てていただいて、また、非常によくまとまってきたなと思っています。2050年にゼロカーボン達成ですから、そうすると、2050年のときにいわゆる中年層で40歳ぐらいの人は、今ちょうど10歳ぐらいなので、子供に対する環境教育も当然重要だということが、ここに含まれていると思います。

8ページに、今回このゼロカーボン戦略策定後に、また改めて2019年に策定した環境基本計画の見直しが始まるのだとあります。ゼロカーボン戦略の中にはあまり環境教育は柱としては出ていなくて、文言としては幾つか出ていますけれども、環境基本計画にしっかりと書かれているということなので、2019-2030の見直しをするときに、改めて環境教育のゼロカーボン戦略にのっとった意識啓発の在り方等ということでご協力できるかと思っていますので、その点、事務局に申入れというか、次の環境基本計画の改定のときにまたいろいろと加えていただけたらいいかと思っています。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

申し送り事項というか、そういう形ででもきちんとノートをしておいていただければと思います。

お願いします。

○委員 よろしく申し上げます。

1つだけ、23ページですけれども、3Rの区取組なのですが、見ると一番下に1行ぐらい余白がありそうだったので、よろしければ最初の四角の「ごみを減らすための取組」の黒ポチを最後にもう一個だけ増やしていただいて、区としてはグリーン購入の徹底をしていただきたいのです。グリーン購入の徹底と一言入れていただけたらいいなと思っ

ているのです。例えば、この紙も非常に白色度が高い、でも、多分再生紙 100%だろうと信じているのですけれども、そういったグリーン購入法というものがあって、区は多分それを遵守されているはずですよ。例えば、ボールペンも替え芯にしていくとか、そういったことを区の職員さんたちで徹底されているはずですので、せっかくですから書いたらいいと思っています。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

併せて、例えば、委員会の通知などもできるだけ紙で送るところから電子化してしまっ構わないと思いますので、ぜひそういった方向に。もちろん紙のほうがいいという方は送ったほうがいいと思いますし、だんだん電子化できるところは電子化に移行していただくことが大事だと思いますので、その辺も今のご発言の趣旨と一緒に、書き加えていただくといいのではないかと思います。

そういうところで、また3人が終わりましたので、まだ手が挙がっておりますけれども、引き続き皆さんには手を挙げていただいて、一旦、事務局でご回答いただければと思います。お願いします。

○環境政策課長 食品ロスの関係は、後でごみ減量推進課長から補足があらうかと思えますけれども、記載については、様々な形で私どもも網羅した形で書いておりますが、もうちょっと区民目線というか、ブレイクダウンした形での記述というか、論点の構成も工夫をさせていただきたいと思えます。

まず、11 ページの記載の仕方ですけれども、これは豊島区でおととしに SDGs 未来都市計画をつくりまして、それをベースにして今この戦略もつくっていることから、その資料の中身を横引きした形になっておりまして、この形で豊島区としての取組も含めて掲載させていただいておりますので、この辺についてはこの書き方を継続させていただきたいと思っております。

環境基本計画の見直しにつきましては、非常に大きな宿題だと思っています。まず、今回はゼロカーボンの 2050 年に向けた取組を一つ大きく柱として取り出して、今、戦略として策定しておりますけれども、今度は環境基本計画という全体的なお話になりますので、これのみを大きく取り上げることもなかなか難しい形になります。ですから、全体的な環境基本計画という骨子とともに、ゼロカーボンという取組を一つ大きくクローズアップをして構成していくという構成全体の工夫も必要かと思っておりますので、まず、戦略をつかって、それを今後の一つの柱として進めていくとともに、環境基本計画全体としてどういう豊島区の環境像をつくっていくのかといったところに今後は反映させていただきたいと思えます。まだ計画改定まで時間はありますけれども、なかなか作業していく時間がないものですから、戦略策定終了後、速やかに検討作業に入りたいと思っております。

グリーン購入のお話ですけれども、グリーン購入については、区の率先行動のところに一事業者として取り組むことは明記させていただいております。これは、区民の方々として取り組む形になるのか、区での取組になるのですけれども、そこはアクション4に整理させていただいております。グリーン購入や環境に優しい物品の購入は、今、アクション2の「未来へ向けたライフスタイルの転換」の中で、具体的に申し上げますと、21ページにそういった環境ラベルといったものは書かせていただいております。重複いたしますけれども、今、委員からご指摘いただいたそういった購入についても、再掲という形で整理をさせていただきたいと思っております。

環境政策課長からは以上でございますが、ごみ減量推進課長から補足をお願いします。
○ごみ減量推進課長　ごみ減量推進課長でございます。

先ほどご指摘いただきました食品ロスに関するところで、ストーリーや共感を生むというところは、まさにご指摘のとおりかと思ひまして、その辺りについて、ご指摘いただいたお茶の話やお米の話を分かりやすくしっかり入れていくところが重要かと考えております。

食はみんなに関わる場所ですので、例えば、1日当たりご飯茶碗1杯ぐらいの割合で皆さんが捨てているという状況とか、スーパーの商品棚の奥から取ったことがある人が88%いるとか、そんなアンケートもあって、おなかを減らした状態でスーパーで買物をすると64%購入量が増えるという調査もあるという、そういったところの具体的な数値なども示していきながら、分かりやすい、行動に、実践に移せるようなものを示していきたいと思っております。

以上でございます。
○会長　ありがとうございます。

確かにおなかが減っているとたくさん買ってしまいそうな気がするので、今のお話は非常によく分かりますね。

先ほどの11ページの取組がなぜ輪っかになっているのかというところですが、先ほどの説明の肩を持つわけではないのですけれども、環境的な取組と社会的な取組と経済的な取組は循環するということを重視して、未来都市ではこの豊島区の主張があったり、内閣府のスキーム自体が自律的好循環という形でこの3つの循環ということを行っていますので、断層になっているイメージもいいと思っておりますけれども、ここはこれで、真ん中に統合的に取り組むという形があるというのも一つの示し方としていいのではないかと考えているところです。

また引き続き議論を続けていきたいと思っております。今までご発言いただいた方でも、反応に対する反応など、ありましたら言っていただければ結構ですので、続けられればと思います。

○委員　昨年度から参加させていただいております。

この案を拝見しまして、本当にエッセンスが詰め込まれて網羅的であり、かつ、コンパクトにまとめられていて、なかなかすばらしくなってきたなと感じています。

私が感じたことといたしましては、今、国が温暖化対策の目標として 2030 年までに 2013 年度比で 46%マイナスにするというところを、豊島区ではマイナス 50%という目標としております。国の目標の中では、部門別で家庭部門はマイナス 66%が目標になっております。それに合わせますと、2030 年までに豊島区では家庭部門で約 7 割近く減らさなければいけないという非常に厳しい目標なわけです。区民の皆さん一人一人に「私もゼロカーボンを目指すんだ」という気持ちになっていただかなければいけないなと思うわけです。いろいろな方がいらっしゃると思いますけれども、それぞれが自分事化して、無関心な人には関心を持っていただき、省エネを頑張っている人にはまだやることがありますということを、より情報提供によって意識をどんどんアップさせていく取組をできれば付け加えていただければいいのかなと思います。区の中には、大正大学あるいは立教大学の学生さんとか、若者のパワーもたくさんあると思いますので、いろいろな情報手段、昨今では SNS が情報提供という意味では非常にパワーを発揮しておりますので、そういったツールを駆使しつつ、自分のゼロカーボンということを継続的に区民の皆さんに根づかせていただければよいなと思います。その情報提供に当たっては、まだこんなことができますよといった具体案を盛り込んだものにしていただければと思うのですけれども、例えば、区の取組で CO2 排出量の少ない電力採用とありますけれども、これは十分に区民の皆さんでもできることですので、できる対策を盛り込んだ情報提供を強化するといった部分を、例えば、17 ページのナッジの部分に併せてでもよろしいので、そういった取組も盛り立てていただければと思いました。

以上です。ありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。

先ほどのお話もそうですけれども、もう少し自らがアクションできるような形で書いていくことは、かなりご苦労されて書いていただいているとは思いますが、さらにそこを強化していただければということだと思いますし、私もそこは非常に大事だと思いますので、ぜひそういったことにチャレンジしていただきたいなと思います。

次の方、お願いします。

○委員 2 回目の選出をしていただきまして、ありがとうございます。

私からは、いわゆる目標の件ですけれども、例えば、5 章の 2、アクション 1～4 の中にあります 2030 年目標というところは具体的な数字がたくさん並んでいるのですが、例えば、14 ページですと、エネルギー消費量を 50%減、括弧して 2013 年度比と書いてあるのですが、ほかのところにはほとんど書いていない。いわゆるどこと比べているのかということがありますよね。先ほどの課長様からのご説明に、太陽光発電の設置容量の 3 万 2500 キロワットが現在は 1 万 2311 キロワットだとおっしゃっていたのですが、そういうものが分ると、ページ数でいうと、14 ページ、18 ページ、あるいは、6 章の 3、29 ペ

ージ辺りも、いろいろな目標の具体化で、「実際はどうなんだ」、「これからどうするんだ」といったときに、「なるほど、今はこうなのか」と合点がいくのかなと思いました。

以上です。

○会長 再び非常に重要な点のご指摘をありがとうございます。

確かにそうですね。多分行政的にはそれをやるといろいろ進捗していないところも分かってしまうのでなかなか難しいというところもあると思いますけれども、そういう意味ではなくて、どれだけ進捗をしたかをはかることは大事だと思いますし、2030年に非常に高い目標を掲げていますので、そういう意味で、そこにどうしても着かなくてはいけないということは、その差が分かったほうがいいと思いますので、ぜひ今の委員の意見は取り入れていただけるといいなと思いました。

○委員 今期も、よろしく願いいたします。

私は審議会委員でありますので、人ごとのような会話をしてはいけないのですが、全体を見て、2050年は、先ほど委員がおっしゃったように、もっと変貌しているのではないかと考えていまして、今の表記を見ますと、2030年は数値化が結構なされている、2050年はこうあるべきだという表現になっておりますが、難しいかもしれないですけれども、できるだけ数値化ができるものは「こうありたい」というところまで表現すべきなのかなという気がしています。例えば、17ページのライフスタイルの転換でウォーカーブルなまちづくりが進むとありますが、これは多分2030年でも通用するような表現になっているかと思うのですね。もっと社会は変貌しているというところを、学識経験者の皆さんの知見を入れながら、より高いハードルを越えるにはこうあるべきだということを強調したらいかがかと感じました。

以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

2050年になると、30年ぐらい先なので、具体的な形が見にくいというところもあって、こういうややふわっとした表現になっているところもあると思いますけれども、今、おっしゃられたように、具体的な数字や具体的なことを書けるところはどんどん書くようにしていくべきだと思いますし、学識経験者に限らず、皆さんからもこの後も含めてご意見をいただきたいと思っていますので、具体的な数値、こういうところがあるよ、こういうものもいいんじゃないか、こういうところにこういうものが載っていたという話があれば、ぜひご連絡いただければと思います。

そう言いながら時間が大分なくなってきましたので、ご意見のある方は、今回まとめて最後まで取りたいと思いますので、ぜひ挙手をお願いします。

ありがとうございます。区民委員の方はこれで全員にご発言いただけるということで、この審議会はいつも区民委員の方に引っ張っていただいているような感じで進んできています。ぜひ活発なご発言を引き続きよろしくお願いします。

○委員 地面のことや緑の書き込みを大分していただいて、ありがとうございます。

先ほどのマイクロプラスチックは人間に蓄積しないという書き込みが出たのですけれども、空気中にかなりマイクロプラスチックが舞っていて、人間も息をすることで蓄積されているということを聞いているのですけれども、その辺はどうなのでしょう。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

先ほどの書き込みは多分委員からだったと思うのですけれども、その辺りはいかがですか。

○委員 マイクロプラスチックは現在、ご指摘があったように、基本的には海洋に流れ込んだもので5ミリメートル以下まで分解されたものという定義になっています。そういう意味では、それらの小さくなってしまったプラスチック類を海洋生物が食べて、あるいは、体内に取り込んで、それをさらに人間が食べたとしても、現時点においては基本的に消化の中で出て行ってしまうと考えられているので、現時点では健康被害はあるとも言えない、分からないというのが現状です。ただ、それらのマイクロプラスチックにはいろいろと付着している物質がありますから、人体への影響がないとも言いきれないのですが、まずは、それが科学的な状況です。

空気中に散布している、例えば、PM10やPM2.5のようなばいじんのような形でプラスチック類が粉じんとして舞っているということは、逆に私はあまり聞いたことがないので、すみませんが、そこは分かりませんとしか申し上げられません。

以上です。

○会長 詳しいご説明をありがとうございます。

私が聞いたことがあるのは、車のタイヤが粉じんとして飛び散って、あの中にプラスチックがあると。

○委員 カーボンブラックですね。

○会長 そういうことがあるので、そういう話かなという気はしました。

○委員 ありがとうございます。

緑化に関する取組をいっぱい入れていただいて、ありがとうございました。

30 ページ、環境モデル路線の下の段落のところに「グリーンインフラ」という言葉が書いてあるのですね。ここで言っているグリーンインフラの概念が狭過ぎて、これはほとんどレインガーデンに近い概念で「グリーンインフラ」という言葉が書いてあると思います。グリーンインフラはもっと幅広い概念だから、自然環境の機能、緑といった多様な機能を生かして、要するに、環境保全や環境課題や社会課題をどう解決していくか、それに役立てるという概念なので、ここでいう「グリーンインフラ」はとても狭い。イコール、レインガーデンに近い意味で取られていますので、少し整理をお願いしたいと思います。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

委員は、今まで、この前の期まで副会長を務めていただいていたのですけれども、今回、SDGs 未来都市に豊島区がなったこともあって、男女のバランスを少し考えたほうがいいのではないかとということで、今回は関委員にお願いしたのですけれども、緑化のこの辺りの話は委員のご知見が非常に重要だと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○委員 よろしくお願ひいたします。

先ほどもお話がありましたが、非常にエッセンスがいろいろと入った上でコンパクトになっていて、環境への入門書という意味では、区民の皆様を読みやすいつくりになっていると感じました。多方面の委員の先生方が入っているからこそこのように仕上がりにしているのかなと思っております。

一方で、皆様からお話のあった、危機感を持ち、かつ、自分のできることを見て、数字の具体目標という話になると、なかなか共存しづらい部分もあるのかなとも感じております。この資料、「2050 としまゼロカーボン戦略」を、2050 年までの有効期限と置くのか、まずは入門期間としてここ数年間でまずはやれることをやりましょうということをお区民の皆様に分かっていただくという概念で考えるのか、捉え方と位置づけによっても方針が変わってくると思ひながら議論を伺っていた次第です。

私からは、未来のエネルギーということで、皆さん、とても新エネルギーにご期待いただひて、洋上風力にもご期待いただひていることはとてもありがたいことだと思ひていひるのですが、まだ新エネルギーは開発途上というところもありまして、今すぐ実用いただひくことも難しいですし、太陽光に関しても、新しい技術、また、新しい商売の形を考へる上で、それを悪用して詐欺のように使われる業者さんもあるという実態もあります。あまり具体的な中身のご紹介をここでしてしまうと商売が陳腐化してしまう可能性もあると考へておりまして、入門書としての入り口と新しい情報が常に見られるようなサイトの紹介の併用といった形で区民の皆様にお伝へすることも手段としてはあるのかなと思ひまして、ご提案させていただきます。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

たしかに、サイトがあると、こっちに行ったり、あっちに行ったり、リンクも張ったりできるので、サイトにも飛べたりするので、それは非常に有効なことかと思ひます。

一通り、皆さんからご意見をいただきましたが、委員、改めてということでしょうか。

○委員 先ほどのマイクロプラスチックで、私がとても目に見えて気になっていることが、公園などのお掃除でよく使われているプラスチックのほうきなのですね。あれは、使ひていひて、どんどん減っているのですよ。区民でも使ひていらっしやる方は結構いらっしやるのではないかとと思ひますし、あれは目に見えてとても気になっています。例へば、区では率先して変えていただひきたいなと思ひています。

○会長 先ほどもそういうご指摘がありましたけれども、それも含めて、非常に重要な点だと思えますね。ぜひ盛り込めたら盛り込んでいただきたいなと思えます。

時間が若干過ぎてしまっていますので、一旦というか、ここで最終的に締めさせていただいて、事務局にまずは今の最後のラウンドのご質問について、簡単に結構ですので、レスポンスをお願いしたいと思います。

○環境政策課長 多岐にわたりましたご意見をありがとうございます。

表記につきましては、より区民の方々に分かりやすい表記をしたいと思っています。2030年に向けた喫緊の課題をまずは共有させていただいて、それをマイルストーンとして2050年に向けた取組という記載で今は整理させていただいております。30年先のことを具体的に書くのもなかなか難しいことかとも思いますが、思いに共感していただくための表現ということで、様々な形で工夫はさせていただきたいと思っています。

焦点をどこに持っていくかによって記述の仕方が難しいわけですが、今、申し上げたように、まず、直近の課題として2030年に向けてどうしていくのか、それをステップにして2050年に向けてどうしていくかという形で、今、戦略をつくっております。委員の方々からいろいろご意見をいただいている中で、戦略をつくって終わりにしようとは私どもは決して思っておりません。これを実現するために、様々な情報発信をしながら、区民の方々を巻き込んで施策に取り組んでいくことが必要かと思っています。

今日、この戦略をつくるに当たって、例えば、QRコードをつけて、そこから必要な情報に入っていけるような形にしようかと思ったのですが、区の情報発信の形が、ページが結構頻繁に飛ぶものですから、なかなかリンク先にアクセスができない形になります。これをつくった後、これを啓発するための考え方を皆さんにPRするための情報発信のツールも、今、考えているところであります。そこでは常にアップデートをした形で最新情報を共有する形を取られているところでありますので、戦略は戦略として、今、まとめさせていただいておりますが、さらにその後も含めた施策の展開については、また改めて審議会に諮らせていただきたいと思います。

この戦略につきましても、本日、まとめさせていただいて、また改めてパブリックコメントを今後進めさせていただきますので、その中でまた皆様方に共有させていただきながらまとめていきたいと思っています。

以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

ちょっと時間が過ぎてしまって、大変申し訳ございませんでした。

本日の議題は取りあえず以上となるのですが、今回いただいたご意見を反映した上で、今、ご説明があったように、パブコメを実施させていただきたいと思っています。その後の内容については、事務局と私で検討して決めるということで、ご一任いただければと考えておりますが、よろしいでしょうか。

委員、手が挙がっていますけれども、大丈夫ですか。

○委員 時間がないところ、申し訳ありません。

一言だけなのですがけれども、今ご説明にあった啓発の仕方なのですがけれども、ぜひ中学校や小学校の先生方への教育、環境教育といいますか、そちらを強化していただけるとありがたいと思います。よろしくお願いします。

○会長 ありがとうございます。

そういったご意見も含めて、引き続き、ぜひメール等でもいただければと思います。

進行が悪くて少し時間が延びてしまいましたけれども、これをもちまして、第5期第1回「豊島区環境審議会」を閉会させていただきたいと思います。

ご出席、また、ご議論いただきまして、ありがとうございます。

最後に、事務局から連絡事項があるということです、そちらをもって終わりにしたいと思います。

○環境政策課長 時間もありませんので、手短に2点ほどご説明申し上げます。

会議録につきましては、3月中旬に確認のご連絡をさせていただきたいと思います。原則として会議の発言をそのまま掲載ということになりますので、よろしくお願い申し上げます。内容の間違い等がないか、確認していただくものでございます。

2点目でございますが、次回の審議会でございます。大体5月下旬か6月に開催を予定してございます。またその日程につきましては改めてご連絡させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

委嘱状につきましては、改めて郵送させていただきたいと思います。

資料等の取扱いにつきましては、デジタル化も含めて、なるべく環境負荷のないような形で進めたいと思っておりますので、また改めてご連絡を差し上げたいと思います。

以上でございます。

○会長 長時間ご議論いただきまして、どうもありがとうございました。

また5月下旬か6月にお会いできればと思います。皆さん、お体に気をつけてお過ごしください。

本日は、どうもありがとうございました。

提出 された 資料等	【資料第 1-1 号】豊島区環境審議会規則 【資料第 1-2 号】第 5 期豊島区環境審議会名簿 【資料第 1-3 号】「2050 としまゼロカーボン戦略」(案) 【資料第 1-3 号(別紙)】「2050 としまゼロカーボン戦略」策定スケジュール
------------------	--